

本日の新聞概観

第百四十三號 内閣情報部報道班一・三一 (水)

△概観

本今朝刊は機間丸事件に關する有田、クレイギー會談、昨日に引續いて電力不足問題が重要課題として夫々トツプに扱はれ、再開議會を明日に控へ政友兩派總裁の演説が大きく扱はれてゐる。社會面では電力問題についての勝越相談、議會質問陣の戦略等が出てゐる。「報知」は明二月一日より十五段階削減する旨並に「天鼓」欄(讀者寄稿欄)を朝刊第一面に復活及び「これでよいか」欄を夕刊第一面に新設する旨の社告がある。

△國內關係

一、電力不足問題

イ、電力調整令發動、緊急策けふ閣議決定せん

關西方面の電力飢饉悪化に對し廿日閣議で協議の結果、電力調整令に基き電力の消費、供給に強權的制限をなすに決し廿一日の閣議に付議決定の上逡信省告示をすることになつた。右は關西、關東地方一律に施行の筈

ロ、石炭に増産奨励金、藏相商相の諒解成る。商工省では廿日石炭増産對策を考究の結果増産奨励金制度採用に決し廿一日閣議席上奨励金支出につき商相は藏相の考慮を求めらる。

ハ、電力制限の對處方針、損失補償行はず  
ニ、關西方面あすから十日間第五次電力制限斷行  
ホ、電力飢饉の波紋(日日)

重工業、休業工場續出し實收資金急減

纖維工業、無計畫制限勞務對策樹立を妨ぐ

食料工業、現在影響薄

化學工業、調整令發動待望、資金に國庫補償要請か

株式界、大戦相場解消す

三、外相議會演說世界新秩序高調、列強の反省促す(讀賣)

三、議會、日曜休會せず(報知)

四、政友兩派政策闡明(黨大會)

中島總裁演說、確固たる方針で重要問題解決へ

久原總裁演說、不退轉の氣魄で國是遂行が肝要

五、米穀需給推算の發表に島田農相消極的(中外)

△對外關係

一、淺間丸事件交渉其後(英國回答發表は暫く保留)

クレイギー英大使は本國訓令に基き三十日午後四時有田外相を訪問淺間丸事件解決に關し約二時間半に亘つて熟議を重ねたが英國側は法理論一點限りの態度を捨て我方の要求する政治的解決法に一步を進めて來たといふ。同日午後七時半頃發表の外務省情報部長談要領は左の如し。

外務省情報部長談……三十日英大使は外相に面會を求め午後四時來訪六時半迄會談。英大使は訓令に基き淺間丸問題を凡ゆる角度から討議し、有田外相は拉致された獨人二十一人の返還は絶対必要なることを主張した。討議は明日も續行される。去廿七日の英國側の回答公文は直ぐには發表せぬこととなつた。一方日本政府の右に對する回答公文は機を逸せず交付する筈。

一、漁業本條約の締結交渉を督促

スノターニン駐日ソ聯大使は卅日午後一時三十分有田外相を訪問、日ソ懸案に關し要談の上二時三十四分辭去したが、有田外相よりは漁業本條約の締結交渉の開始を督促し、ソ聯側はわが方の原案たる昭和十一年の酒匂カズロフスキー協定に對し不滿の意を示してゐるので今回はソ聯側よりの原案提示を希望した。

△東亞關係

一、重慶行政院三部増設(香港同盟)

昨年十一月の重慶國民黨六中全會で決定されたま、中共側策動や黨内紛で停頓してゐた重慶行政院の三部増設問題は近く實現される豫定で下馬評人選左の如し。一社會部長許世英、農林水利部長陳濟棠、同次長町芳浦、通商部長宋子文  
一、ジョンソン米大使上海へ(漢口同盟)

ジョンソン米大使は三十日夕漢口俱樂部で茶會を催し日本總領事列席の席上揚子江溯江により更生復興の現状を見好印象を受けた旨を語り注目された。三十一日朝漢口發上海に向ふ豫定。

褚民誼氏、青島會談成果報告（於孫文紀念週席上）（上海同盟）

一、上海邦人ギヤングに拉致さる（上海同盟）

仁和洋行岡直樹氏（四六）が二十九日午後米買出しの歸途虹口飛行場附近でトラック十臺と共に支那人ピストル・ギヤングに拉致さる。

#### △歐米關係

一、伊、新防共協定説否認（ローマ同盟）

天羽駐伊大使がブダペストの在歐日本大使會議列席の爲の出發に際しチアノ伊外相より新防共樞軸結成を提案したこの風説（參照第四百一十一號）に對し伊官邊は三十日之を正式に否定した。

一、對日禁輸案審議を繰る米の輿論

イ、上院議員筋（ワシントン同盟）

○ピットマン上院外交委員長……議會が大統領に對し何時でも對日禁輸を斷行し得る權能を與ふることを拒否したならば日本の支那に於る米人差別待遇繼續を奨勵する様な結果となる。

○ワグナー議員（民主）審議を一ヶ月延ばし日本の行動を研究すべきである。

○ナイ議員（共和）對日禁輸斷行には何れにせよ反對だ。

○ボキラー議員（民主）對日禁輸には氣が進まぬ。日本の對米悪感情を煽動するだけだ。

(ロ) リツプマン氏の反對論（ニューヨーク同盟）

ウォター・リツプマン氏は三十日付ニューヨーク・ヘラルド・トリビュン紙上に日米通商條約廢棄の重大性につき米國民の認識不足を指摘する。共に日本の力を過小評價するなき警告した。――「米國及びその他諸國を孤立化するため米國と聯合することにならう。かくて日本は日米戦争を回避しつつ米國を完全に孤立化し遂には米國は日獨蘇三國の東太平洋に於ける絶對的地位と不利條件の下に闘はざるを得ざるに至る。」

(イ) ハートレー氏論文（ワシントン同盟）

前國務省官吏で「米國は怖れるか」の著者たるリヴィングストン・ハートレー氏は廿八日のワシントン・ポスト紙上「米國の新極東政策」を題し對日強硬壓迫論の危険を指摘した。――「西歐民主主義國の利益を犠牲にしてまで支那を助けるは愚の骨頂だ、英佛等には露聯の方が脅威で此の際日本を獨蘇の陣營に追込むのは結果において獨蘇を援助するに均しい。對日禁輸は即行より何時でも出来るやうにして置く方がいい。」

一、七月以降に米八十二隻起工（艦政本部長言明）（ワシントン朝日）

一、英佛經濟提携に龜裂（佛の英石炭輸入を繰りて）（ベルリン報知）

一、獨土協定假調印（インスタンブル同盟）

三十日アンカラにて假調印、前電二十七日に調印は誤報。内容、年額百五十萬ポンドに至る迄の各種生産品の交易を規定しそれを超過するまきは自然に失效する。

二、サーダバッド協約の軍事同盟化説イラン否定（アンカラ同盟）

蘇聯の南下に備へアフガン、イラン兩政府がイラックに對しサーダバッド協約の軍事同盟化を提唱したるの報道は駐土イラン大使館からウルス紙上に聲明を發表して正式否定。

三十一日付夕刊

△國內關係

一、外相演說要綱決定

(一)新中央政府樹立の經過、見透し(二)對ソ外交の經過(三)防共問題の推移、將來の方針(四)淺間丸事件(五)日米國交調整方針(六)第三國の在支權益紛争解決、揚子江珠江開放問題(七)列國との通商關係の調整方針

二、閣議電力鐵道打開策協議

勝選相談、調整令發動の要望があるが今すぐ強權を發動するよりも石炭を至急礦西方面へ集め相當貯炭が出来た所で實施したい。

三、政友兩派黨大會開催

革新派、生産擴充焦眉の急、豫算慎重檢討、正統派、諸政策根本檢討の秋、生活の安定確保  
國學科試験復活を文部當局否定

△對外關係

一、淺間丸事件交渉其後

- (イ) 有田・クレイギ明日會見
- (ロ) 英東京會談に期待（ロンドン同盟）
- (ハ) 伊日本を支持（ローマ同盟）

△東亞關係

一、滿洲國皇帝五月十日噴御來訪

御來訪は五月十日噴、宮内府大臣以下御近を従へさせられ海路横濱に入港直ちに御上京、參内紀元二千六百年の御祝詞言上の上帝部には約一週間、都合日本御滞在は二週間の豫定、伊勢神宮、滋原神宮へも御參拜大阪港より御歸國の豫定。三月係官來朝下檢分の筈。

二、天津封鎖強化問題（英官邊の態度）（ロンドン同盟）

英政府代辯者は「本問題は淺間丸事件の報復とは考へず、對日申入れをするにしても淺間丸問題は別個になされるであらう、日本側の封鎖強化は支那人の不正行爲を彈壓する爲である」と語つてゐる。

△歐米關係

一、米對日禁輸を回避か（ニューヨーク中外）

- 一、日米特許權商標權規定從來通有效（ニューヨーク同盟）
- 二、エクアドル又叛亂説（於マズメラルダス市）（リマ同盟）
- 三、獨空軍大舉商船を空襲（ロンドン朝日）
- 四、獨バルカン諸國へ強壓か（公使會議で方備決定）（ロンドン朝日）
- 五、英佛獨使節ルーマニア乗込み（石油爭奪戦熾烈）
- 六、伊、國境方面に兵力増強説（伊最高軍事會議開催）

朝刊論説題目

- 「朝日」 關西大停電の示唆、學科試験廢止の徹底
- 「日日」 電力調整の急務、交通不安
- 「讀賣」 深刻化する電力不足、内申書の試煉
- 「中外」 議會は果しそ無風帯か
- 「報知」 日和見官僚に告ぐ
- 「國民」 電力饑饉の恒久對策
- 「都」 堂々たる反駁、豫算と政黨、議會の機能、生活の確保、精勵の改組